

オランダ特許庁、植物育種技術に関する特許出願動向の調査報告書を公表

2012年4月18日

JETRO デュッセルドルフ事務所

オランダ特許庁は3月29日、植物育種技術に関する特許の出願動向の分析結果等をまとめた「植物育種：特許の観点からの技術分野（Plantenveredeling: de sector vanuit octrooiperspectief）」と題する調査報告書を公表した。

同報告書は、オランダ経済・農業・イノベーション省からの要請に基づき、オランダ特許庁が、1980年～2008年までの植物育種技術に関する特許出願を対象として実施した調査結果をまとめたもの。

この調査結果によれば、合計 50,047 件の植物育種技術に関する特許出願のうち、オランダからの出願は 5% であり、これは、米国（40%）、ドイツ（10%）、日本（7%）、英国（6%）に次いで世界第 5 位であるものの、近年の傾向としては、オランダ企業を買収した外国企業による出願件数として統計データが示されている結果、減少している。また、ほぼ全ての出願が植物新品種保護国際同盟（UPOV）¹の加盟国からであった。技術別に見ると、製造方法（38.3%）、製品（73.7%）、植物育種のための DNA 関連技術（33.2%）であった（ただし、1 出願あたりに複数の技術を含む場合があるため合計が 100% を越えている）。

また、オランダ特許庁のプレスリリースによれば、バイオテクノロジーの企業だけではなくオランダ国内外の植物育種の企業が研究開発における投資の成果を確保するために、特許権を活用していることが同報告書によって示されたとしている。

同報告書の第 72 頁に記載されている結論は次のとおり。

- 植物育種の技術分野における大半の出願は、米国に本社を構える大企業によってなされている。
- 特許の数において独占的な地位を有する出願人はいない。
- Pioneer Hi-Bred International 社（1999 年からデュポン社の 100% 子会社）が、全ての特許出願件数の 5.4% を占める、最大の出願人である。

¹ 現在の加盟国数は 112

- オランダの発明者または出願人による特許出願件数は多くはないものの、オランダは優位な地位を占めている。
- 多くのオランダ企業が、植物育種の技術分野における特許のみからなる特許の地位を有している。これらの企業は、特にこの点を背景に、植物育種の技術分野における特許規則の改正が全体の特許の地位に影響を与え得るため、そのような改正に対して慎重である。
- オランダは全体では 5 位であるが、製造方法の特許については、オランダは 3 位である。
- DNA 技術の分野におけるオランダの相対的割合は、製品および製造方法の分野における相対的割合よりも大きい。
- オランダに居住を有する発明者の特許出願の割合は、オランダに本拠地を置く出願人からなされた特許出願の割合と同程度である。
- オランダ出願人名のものと発明の数の傾向は、前世紀の 1990 年代後半以来、一定である。
- Wageningen UR 社は、植物育種の技術分野において最も重要なオランダの特許出願人である。
- 調査対象期間において、オランダの発明者の活動は、實際上、変化していない。オランダの発明者が貢献した特許出願の数の減少の形として表に現れてくるべきである「知識の流出」は観察されていない。しかしながら、オランダに居住を有する発明者による発明の一部は、外国の所有者として現れている。
- 植物育種のための DNA 技術の発明が最も多く、植物育種の技術分野の製品の発明がそれに続いている。
- 植物育種の技術分野における製造方法について、最も少ない特許が出願された。
- UPOV 加盟国の出願人は、植物育種の技術分野における特許保護も得ようとしている。

— オランダ特許庁によるプレスリリースは、以下参照（オランダ語） —

[Plantenveredeling vanuit octrooi perspectief](#)

— 報告書は、以下参照（オランダ語） —

[Plantenveredeling: de sector vanuit octrooiperspectief \(PDF\)](#)

(以上)